

令和 4 年度
福島県 集落自主活動に係る伴走支援事業

田村市船引町瀬川地区業務実施報告書

獨協大学セガワ応援隊

[目次]	ページ
1. はじめに	1
2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定	2
2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要	
2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化	
2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題	
3. 今年度の活動実績と評価	5
3.1. オンライン・ミーティングの開催	
3.2. 現地視察	
3.2.1 聖石温泉	
3.2.2. 瀬川小学校と旧瀬川中学校の視察	
3.2.3. せがわ食堂	
3.2.4 瀬川地区の神社の視察	
3.2.5. そば打ちの視察	
3.2.6. 大倉神社の太々神楽の笠揃いの視察	
3.3. 地域活性化に向けたワークショップの開催	
3.4. 新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ開催への協力と来場者アンケートの実施	
3.5. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”における福島県復興支援物産展の開催	
3.6. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会	
4. 次年度の活動計画案	28
4.1. 2022 年度末に閉校となる瀬川小学校の利活用	
4.2. 軽トラマルシェのサポートと拡大、大学で開催する物産展の継続	
4.3. プロフィール動画の撮影と公開	
5. おわりに	30

1. はじめに

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームは2017年度に「大学生等による地域創生推進事業」の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」(委託事業)に採択されて福島県田村市船引町瀬川地区において活動を開始した。「小さな体験活動を通し、瀬川地区の維持及び活性化に資する」という理念の元、耕作放棄地を利用したそばの作付などの活動を行っている「やってみっ会」(会長新田昭悟氏)を中心として、「結いの会」「瀬川地域づくり協議会」の皆さんと協働して、瀬川地区の集落活性化事業に取り組むことになった。2018年は「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の企画運営を行った。3年目の2019年度は獨協大学セガワ応援隊として「大学生等による地域づくり支援事業」(補助事業)に採択されたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、申請を見送った。4年目の2021年度は、前年度までの「大学生等による地域創生推進事業」が「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に衣替えされ、「大学生等による地域づくり支援事業」が「集落自主活動に係る伴走支援事業」(委託事業)となった。これに申請・採択していただいたが、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地活動は行えず、オンラインのみの活動となった。そして、5年目の2022年度は2019年度以来3年ぶりに現地調査を行うことができ、次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請を目指すことになった。

田村市船引町瀬川地区を担当する獨協大学セガワ応援隊は、志賀陽(代表:経済学科3年)、内山輝(会計:英語学科3年)、石川育実(フランス語学科3年)、松井海紀(フランス語学科3年)、原田奈穂(国際環境経済学科1年)、黒木健登(法律学科1年)、岡部将太(総合政策学科卒)の5学科6名と卒業生1名からなるチームである。

前年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で現地調査ができず、オンラインでミーティングを重ねていたが、今年度はオンラインでのミーティングに加え、3年ぶりに11月12日(土)・13日(日)の2日間、セガワ応援隊メンバーは現地に入って活動することができた。メンバーにはもはや、現地活動の経験のあるメンバーは誰もおらず、あたかも1年目のチームのようであった。11月12日は、集落の方に案内していただき聖石温泉や旧瀬川中学校、瀬川小学校、神社を視察した。さらに瀬川住民センターにて、そば打ち見学をし、メインの地域住民に集まっただいて地域活性化に向けたワークショップを開催した。メンバーがファシリテーターとなり進行を行い、4チームに分け、それぞれ学生と地域住民でグループをつくり、地域資源と地域課題、そして地域の将来について意見交換を行った。11月13日は、新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催に協力した。また、来場者にアンケートを実施し、イベント終了後には、「やってみっ会」の皆さんと次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」の方向性について打ち合わせを行った。また、11月3日(木・祝)には、メンバー2名が大倉集会場で行われていた大倉神社の太々神楽の「笠揃い」を視察させていただいた。

また、12月12~16日に行われた“Earth Week Dokkyo 2022~Winter~”では、他の地区

と合同で「福島県復興支援物産展」を開催し、瀬川地区の PR だけでなくセガワ応援隊としての活動の認知度向上、売上を上げ瀬川地区に収益として還元することができた。

本報告書において、獨協大学セガワ応援隊の田村市船引町瀬川地区における今年度の活動実績について報告する。第 2 節では、田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定を今一度、確認した上で、第 3 節で今年度の活動実績を報告するとともに振り返って点検評価を行う。そして、第 4 節で次年度の活動計画案についてまとめる。

2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定

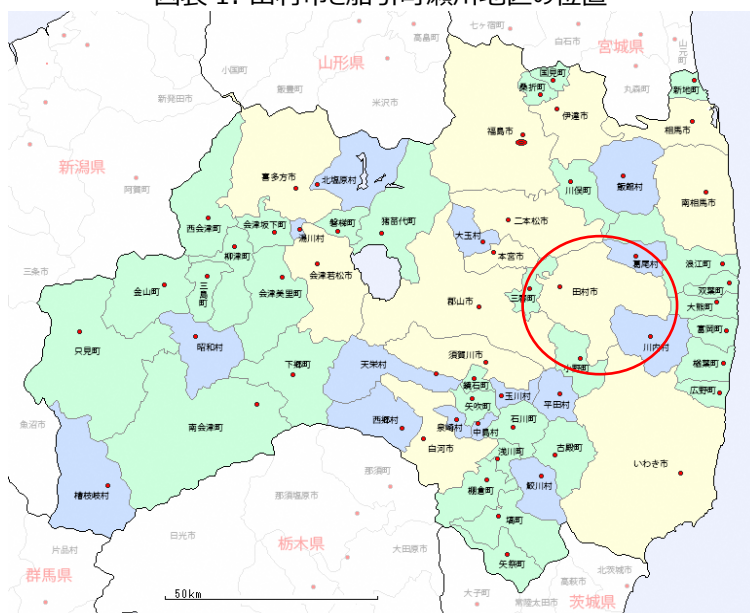
2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要

田村市船引町には、船引地区、文珠地区、美山地区、瀬川地区、移地区、芦沢地区、七郷地区、要田地区の 8 地区がある。瀬川地区は、田村市の北西部、田村市船引町の北部に位置し、船引町の中心部より北東へ 7km ほど離れ、二本松市と隣接している(図表 3 を参照)。面積は、約 17.73km²、標高 400m 前後の丘陵地である。また、おおむね東側には移ヶ岳(標高 994.5m)が位置している。瀬川地区は阿武隈高地に位置し、山がちな地形である。

丘陵地の大部分が森林であり、低地の部分については、田畑の耕作地である。瀬川地区の中央を移川(1 級 河川長さ 49.5km)がおおむね東西方向に流れ、これに紫川が大倉で合流し、阿武隈川へと注がれている。瀬川とは、この地方の地形から付けられた名前で、移川、紫川の美しい流れが山間部のわずかに開けた平坦地を流れるさまを表しているという。

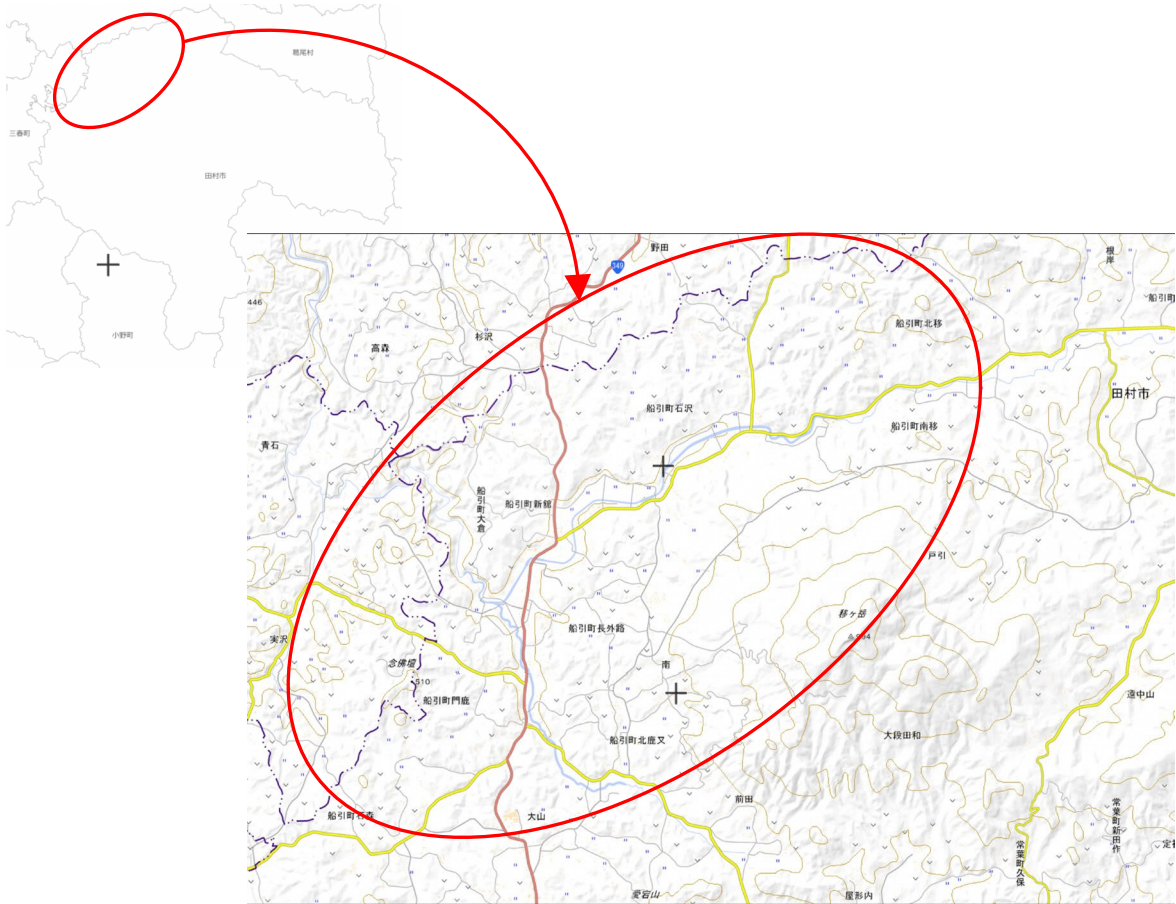
瀬川地区は^{かどしか}門鹿、^{にいたて}大倉、新館、石沢の 4 つの行政区で構成されている。行政区分としては「瀬川地区」とは田村市船引町の以下の大字の住所を指している。

図表 1. 田村市と船引町瀬川地区の位置



[出典]47 都道府県の地図「福島県の地図」(<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>)を参照。

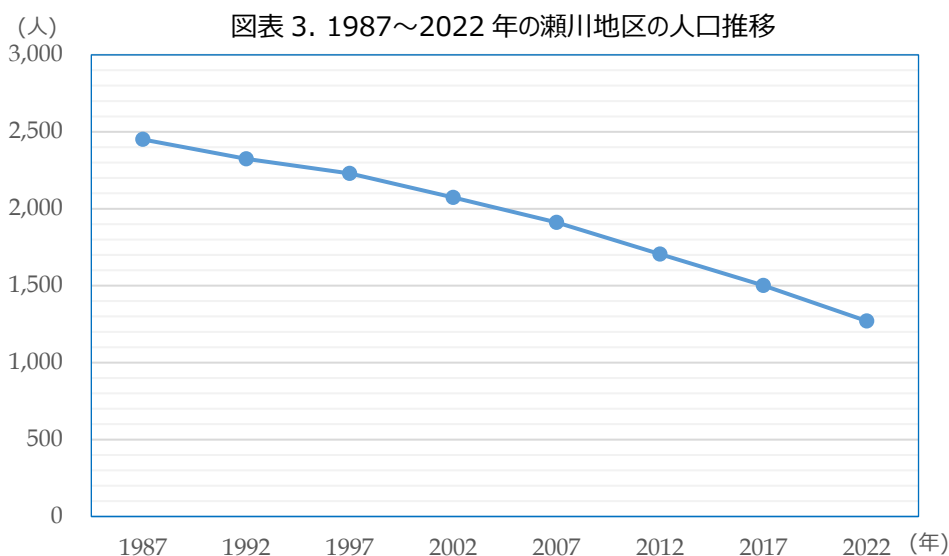
図表 2. 田村市船引町における瀬川地区の位置



[出典]国土交通省国土地理院「地理院地図」(電子国土 Web)(以下の URL)より作成。
(<https://maps.gsi.go.jp/#14/37.498334/140.597946/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化

図表 3 には 1987 年以降の瀬川地区の人口推移を掲載しているが、瀬川地区の人口は 1987(昭和 62)年の 2,450 人から 2007(平成 19)年には 2000 人を切り、2017(平成 31)年には 1,501 人となり、2022 年には 1,270 人となっている。2022 年には 1987 年の約半分の人口となっており、人口減少に歯止めがかからない状態である。また、児童の数をみてみると、田村市の児童の人数は 1,586 人である。



[出典]「瀬川の人口及び世帯数の推移」『住民基本台帳』より作成。瀬川出張所調べ。

2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題

私たちの先輩の米山チームが 2017 年度に現地調査を実施し、瀬川地区の抱える問題を次のように集約した。設定した課題は以下の通りである。

■瀬川地区の抱える問題

- (1)地域コミュニティが崩壊しつつある。地域住民の交流の場がない。
- (2)瀬川地区に働き口、収入源がない。
- (3)外部の人が瀬川地区を訪れる理由がない。
- (4)空き家、耕作放棄地が増加している。

このような問題の整理から取り組むべき課題を以下のように抽出している。

■取り組むべき課題

- (1)地域住民の交流する場を増やし、日常生活に対するサポートを提供する。
- (2)収入を発生させる仕組みをつくる。
- (3)外部から注目してもらい、立ち寄ってもらい、交流人口を増す。

この課題に対して 2018 年度、2019 年度は「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催に協力してきたが、2020、2021 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて開催が中止となった。今年度は 3 年ぶりに「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」を開催することができた。

2020 年度は 4 地区の神社のうち、かろうじて石沢と大倉では秋の例大祭に舞が奉納されたが、2021 年度はいずれの神社での舞の奉納は中止となった。2022 年度は、11 月 5 日に大倉、11 月 6 日に門鹿が太々神楽を奉納したが、石沢と新館については行われなかった。

ミーティングを重ね、今年度は 3 年ぶりに現地調査をおこなった。また、例年同様、学内にて物産展を開催した。次節では、この事業内容について詳細な活動報告を述べる。

3. 今年度の活動実績と評価

2022 年度はコロナ禍のため、前年度に引き続き現地活動に向けてオンラインでのミーティングを全 9 回行った。また今年度は、2019 年度以来 3 年ぶりに現地活動を行うことができた。11 月 12 日(土)・13 日(日)の 2 日間、メンバーほぼ全員で現地で活動することができた。11 月 12 日は、集落の方に案内していただき聖石温泉や旧瀬川中学校、瀬川小学校、神社を視察した。さらに瀬川住民センターにて、そば打ち見学をし、1 日目にはメインのワークショップを行った。学生がファシリテーターとなり進行を行い、4 チームに分け、それぞれ学生と地域住民でグルーをつくって、ワークショップを行った。11 月 13 日は、新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催に協力した。現地活動の際には、次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請について「やってみっ会」メンバーと議論することができた。また、メンバーのうちの 2 名は、11 月 3 日(木・祝)に大倉神社の太々神楽の笠揃いの視察する貴重な機会を得た。

さらに例年同様、他チームと協働して「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”」において福島県復興支援物産展を開催した。ここでは、これらの活動実績について報告する。

3.1. オンライン・ミーティングの開催

今年度も活動未経験のメンバーが多かったため、瀬川地区の「やってみっ会」のメンバーとコミュニケーションをとり、今までの活動の振り返りを行った。また、学内でのミーティングは感染状況が比較的落ち着いていた時期は、対面でミーティングを行い、状況に応じてミーティング形式はオンラインと対面を併用した。今年度は、2019 年度ぶりに現地調査が行えるようになり、現地調査時には対面で「やってみっ会」の方々と次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」の申請に向けた打ち合わせを行った。

図表 4. 2022 年度活動報告:ミーティング記録

日付	内容	参加者
第 1 回 2022/7/13 オンライン	今年度キックオフミーティング 自己紹介 役職の決定	学生：6 名 教員：1 名
第 2 回 2022/8/25 オンライン	今までの活動の振り返り	学生：4 名 教員：1 名
第 3 回 2022/10/14 対面	現地入りに向けた話し合い	学生：5 名 教員：1 名
第 4 回 2022/10/31 オンライン	現地調査に向けた話し合い 学生が考えた事業案についての地域の皆さんの意見を聞く ・挨拶、事業案についての意見交換 (学生案) ・ワークショップについて	学生：3 名 教員：1 名 集落：5 名

	・喫茶セガワ	
第5回 2022/11/2 オンライン	集落の方と現地調査に向けた最終確認 ・日程調整 ・学生側が準備することの確認 ・集落側が準備することの確認	学生：5名 教員：1名 集落：5名
第6回 2022/11/8 オンライン	学生のみで現地調査に向けた最終確認と準備	学生：4名
第7回 2022/11/21 対面	現地調査の振り返り 領収書、ワークショップ模造紙等、提出書類の確認	学生：6名
第8回 2022/12/2 オンライン	集落の方と現地調査の振り返り 物産展開催に向けた打ち合わせ ・日程調整 ・商品確定 ・売り方	学生：4名 教員：1名 集落：5名
第9回 2022/12/9 オンライン	物産展開催に向けた最終確認	学生：4名

10月から本格的に指導し、時間のない中ではあったが、11月の現地調査に向けて集落の方とミーティングを重ねた。メンバー全員が現地での活動は未経験であったが、ワークショップや新そば収穫祭&軽トラマルシェの手伝いなど、予定通り進められたことは評価できる。また、無事に終わることができたのは、日程調整や受け入れなどメンバーや集落の方々の協力があったことだと思う。しかし、本来であれば年度の初めに、メンバー間また集落の方とミーティングを重ね、年間の活動計画を立てるべきであった。反省点として参加者にばらつきが生じていることや連絡不足もあり、コミュニケーション不足が解消されず、スムーズにミーティングが行えていなかった。

以上の改善点を踏まえ、ミーティング日時を不定期ではなく、あらかじめ設定しておき参加者を増やすことで、メンバー間のコミュニケーション不足を解消することやほかの地域のチームとも合同ミーティングを開催し、刺激を受けることで、より意欲的に取り組めるのではないだろうかと考える。また、活動報告会など他のチームの活動を知ること、瀬川地区にも通ずる課題や活動企画が思い浮かぶ可能性もある。次年度に活動するメンバーにはこのような点を取り入れて活動してもらいたい。

3.2. 現地視察

今年度は、11月12日(土)・13日(日)の2日間、2019年度以来3年ぶりに現地活動を行うことができた。セガワ応援隊の現メンバーは誰も現地に入ったことがなかったので、現地に入って、現地の空気を吸って、地域の皆さんと対面でお話させていただいたり、意見交換することができたのはとても大きな成果であった。11月12・13日の現地視察の行程表は、以下のとおりである。

図表 5. 現地視察行程表

時程	行程
11月12日(土)	
8:33～9:31	東北新幹線 <u>やまびこ 127号</u> (仙台行) 大宮駅発～郡山駅着
9:41～10:10	JR 磐越東線(小野新町行) 郡山駅発～船引駅着
10:15～10:30	移動 (対応：地元)
10:30～11:55	聖石温泉、瀬川小学校調査、旧瀬川中学校
12:00～13:00	昼食 せがわ食堂
13:05～13:55	瀬川地区の神社の視察
14:00～15:00	瀬川住民センター：そば打ち見学、ワークショップ会場準備
15:00～17:00	地域活性化に向けたワークショップ
17:00～17:30	記念撮影、ワークショップ会場片付け
17:30～18:00	瀬川住民センターから針湯荘まで (対応：針湯荘)
18:10	針湯荘チェックイン
19:00～	夕食
11月13日(日)	
7:00～	朝食
7:55	針湯荘チェックアウト
8:00～8:30	針湯荘から瀬川住民センターまで (対応：針湯荘)
8:35～9:55	「せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の準備
10:00～14:00	「せがわ新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の運営に協力
14:00～ 14:30	片付け
14:30～15:30	福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)申請に向けた打ち合わせ
15:35～15:40	移動 (対応：地元)
15:55～16:22	JR 磐越東線(郡山行) 船引駅発～郡山駅着
16:30～17:23	東北新幹線 <u>やまびこ 146号</u> (東京行) 郡山駅発～大宮駅(東京駅)着

3.2.1 聖石温泉

奥州福島聖石温泉(田村市船引町大倉字聖石 215)代表の村越雄城氏にお話を伺った(写真1参照)。火曜～日曜の営業で、以前は高齢者(おばあさん)たちが利用していたが、東日本大震災につづき、コロナウイルス感染拡大の影響で高齢者は動けなくなり、聖石温泉の利用客は格段に少なくなった。そこで、顧客のターゲットを旅人(ライダー)にした。

東京電力福島第一原発の事故により帰還困難区域等が設定され、立入禁止措置が取られた影響で、海岸沿いを走る国道 6 号が通行止めとなった。その迂回道路として聖石温泉の前を通る国道 349 号が使われた。青森のねぶた祭りに向けていく旅人が、聖石温泉の前の道路を利用し、その青森までいく途中で泊まれる場所としてライダーが立ち寄るようになった。また、旅人は SNS 発信に長けていることから、徐々に知られるようになって、以前は利用者の 9 割が県内の人だったのが、今では 9 割が県外の人へ変わり、「旅人の聖地」となった。利用者は、1 日平日 10 人。土日は 30～40 人ほど。今までは近所の高齢者が多く

利用しており、平日の方が利用者は多かったが、今では休日の県外からの利用者が多くなっている。

聖石温泉が併設するキャンプ場「TREASURE HUNT EL DORADO」(写真2参照)には、多くのライダーが宿泊地として利用するそうだ。春休みや夏休み、冬休みといった期間営業をしており、温泉に入れば無料でキャンプ場が使える仕組みになっている。最長で1か月半いた人もいる。長く滞在してもらうことで、田村市内を観光してもらったり、周辺を散策してもらい、周辺地域に波及効果をもたらすことが期待できる。聖石温泉では、会津の福福亭と仲が良く、お客さんを双方に流すという交流も生まれている。キャンプ場は建築板金業(3代目)も営む村越氏が廃材を利用し、予算9,800円で作ったということである。予算がないならないで、その地域のものを利活用するか考える大切さを学んだ。そこに学生からの目線で再発見していく必要がある。

写真1 聖石温泉



写真2. 聖石温泉併設施設「TREASURE HUNT EL DORADO」



3.2.2. 瀬川小学校と旧瀬川中学校の視察

今年度いっぱい閉校となる田村市立瀬川小学校(田村市船引町新館軽井沢746)(写真3参

照)と、すでに 2009 年に閉校となった旧瀬川中学校(田村市船引町新館字軽井沢 1074)(写真 4 参照)を視察した。実際に視察してみて、瀬川小学校は校舎やグラウンドなどの学校敷地を合わせると結構なスペースになり、ただ放置して老朽化を待つだけではもったいないなと感じた。瀬川中学校の現在の活用方法は図表 6 の通りであるが、かなり老朽化が進んでいるようであった。

写真 3. 田村市立瀬川小学校を視察



写真 4. 旧瀬川中学校校舎(左)と体育館(右)



図表 6. 瀬川中学校の現在の活用事例

場所	利用方法
柔道場	物置き
プール	壊す
体育館	フットサル
本館	予算がつかない。企業も入らないため取り壊し。
グラウンド	グラウンドゴルフ
手入れ	年間 20 万円

3.2.3. せがわ食堂

11月12日の昼食は瀬川住民センターの道路を挟んで向かいにある、せがわ食堂(田村市船引町船引新館下 420-1)で昼食をとった(写真5参照)。お昼時にはたくさんのお客さんで繁盛していた。定食やラーメンなどのメニューが揃っていて、いずれもボリューム満点で、とても美味しかった。

写真5. せがわ食堂



3.2.4. 瀬川地区の神社の視察

瀬川地区の門鹿、大倉、新館、石沢の地区ごとにある神社を視察した(写真6参照)。門鹿の門鹿王子神社、古室神舎は同じ境内に立っていた。大倉地区の大倉神社の境内はイチョウの葉が黄色く彩っていた。老朽化して建て替えられた新館神社はこじんまりとしていた。石沢の鹿島・熊野神社は時間がなくて境内まで行っている時間がなく、参道から神社の森を撮影した。神社の周りにはうっそうと木々が生い茂っており、とても自然に抱かれているようなリラックスできる雰囲気だった。古き良き伝統を感じる建物を見ることができた。

写真 6. 瀬川地区の神社の視察
同じ境内に立つ門鹿王子神社(左)と古室神社(右)



大倉神社(左)と建て替えられた新館神社(左)



鹿島・熊野神社の立つ森



3.2.5. そば打ちの視察

瀬川住民センターにおいて、翌日の新そば収穫祭に向けたそばの準備を視察させていただいた(写真7参照)。田村市常葉町の「手打ちそばときわ会」の吉田会長に寒暖差のある気候が美味しいそばを育てることから、そば打ちの工程について、丁寧に説明していただいた。知らないことが多く、終始楽しく学ぶことができた。

写真 7. そば打ちの見学



3.2.6. 大倉神社の太々神楽の笠揃いの視察

メンバー2名は、別の事業で現地に入っている際に、「やってみっ会」の手配していただいて、11月3日(木・祝)の19:00~20:15には、船引町大倉集会場で行われていた大倉神社の太々神楽の「笠揃い」を視察させていただいた(写真8参照)。ここでその報告も記載させていただきます。

笠揃いというのは、11月5日に行われる大倉神社の太々神楽の練習を行ってきた子供たちが、大倉区長の前で練習成果をお披露目する場である。自分たちより年下の子供たちが神楽を踊っているのを観て、驚くとともにとても感動した。伝統芸能を目にする機会ほとんどなかったので、非日常的で、とても貴重な体験をすることができた。また、伝統芸能という昔から引き継いでいる行事を行っているというだけではなく、地域の子供と大人

の重要な交流の場になっているのではないかと感じた。そして、神楽の視察の後には、「直会」という神前に供えたお神酒を下げて参加者の方々にいただく場にも参加させていただき、神楽保存会の方々と交流した。皆さん温かく話しかけてくださり、有意義な時間を過ごすことができた。

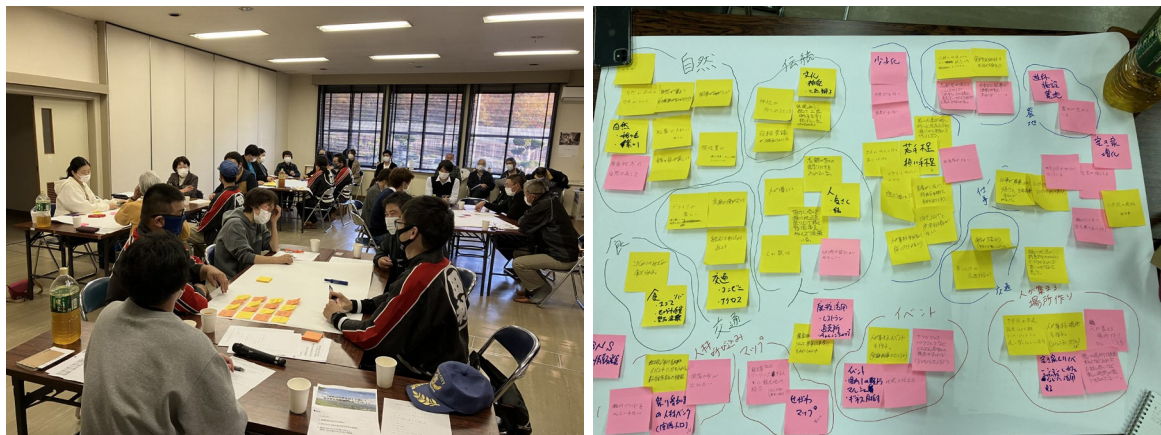
写真 8. 大倉神社の太々神楽の笠揃いと直会



3.3. 地域活性化に向けたワークショップの開催

学生と地域住民で4チームづくり、「地域の魅力」「地域の課題」「今後やりたいこと・取り組み」の3つの議題で、話し合った(写真9参照)。各自考えた意見を付箋に書き、グループで話し合いながら模造紙にまとめた。図表7はワークショップのグループ表である。参加者は計21名であった。

写真 9. 学生と地域住民によるワークショップ



図表 7. ワークショップグループ表(当初予定)

連番	チーム	氏名	所属
1	1	松本英治	やってみっ会
2		伊藤美津子	結いの会
3		佐藤圭太	消防
4		菅野稔	消防
5		村越芽生	聖石温泉若女将
6		志賀陽	獨協大学3年
7	2	渡辺宏一	やってみっ会
8		佐々木裕美子	結いの会
9		村越丈	消防
10		佐々木克明	市職員
11		石川育実	獨協大学3年
12	3	伊藤博之	やってみっ会
13		佐藤伸夫	結いの会
14		箭内宏和	消防
15		宮川直樹	市職員
16		松井海紀	獨協大学3年
17		黒木健登	獨協大学1年
18	4	橋本恵子	結いの会
19		面川仁	消防
20		佐藤明弘	消防
21		石川真理枝	地域おこし協力隊
22		内山輝	獨協大学3年
23		原田奈穂	獨協大学1年

図表 8～11 は、各グループで出た意見をまとめたもので、この意見を参考に次年度からの活動に活かしていきたい。地域住民間でも普段関わりの少ない方と意見交換をすることができ、今後の地域にとっても良い機会になったと考える。学生たちとしても、地域住民の正直な意見を聞くことができ、より瀬川地区への理解を深めることができたと思う。

図表 8. 1 班ワークショップ意見

メンバー氏名：志賀陽(獨協大学学生)、松本英治(やってみっ会)、伊藤美津子(結いの会)、
佐藤圭太(消防)、菅野稔(消防)
欠席：村越芽生(聖石温泉若女将)

	すべての付箋の意見	分類
「地域の魅力」について	星がきれい	自然
	景色が綺麗	自然
	世代を超えた顔見知りが多い	交流
	人がやさしい	交流
	人の繋がり	交流
	良くも悪くも顔見知り	交流
	譲り合い	交流
	マルキン	食
	農業をする場合、土地を借りやすい	食
	家庭菜園 OK!	食
	地産地消!!	食
	瀬川食堂	食
	静かで暮らしやすい	住
	聖石温泉	住
	何もない所、何でもできる!	住
生活にお金がかからない	住	
「地域の課題」について	お店が無い	住
	飲みに行けない	インフラ
	車がないと生きていけない	インフラ
	交通	インフラ
	通勤が不便	インフラ
	インフラ	インフラ
	消防団が大ピンチ	職
	助成金が借りにくい	職
	仕事がない	職
	特産品がない	食、職
	コミュニティがなくなっている	交流
	子供の遊び場	交流
	若い世代が少ない	交流
	学校がなくなってきた	交流
	地域でのイベントが無い	交流
今後やりたいこと・取り組み	空き地が多い	利活用
	農地の活用	利活用
	多世代地域交流イベント	交流
	地元の人と飲みたい	交流
	瀬川以外との交流を増加	交流
	国、都市、町との提携	交流
	中、小規模のイベント	交流
	農地(農業)を周知するイベント	職、交流
	お店の継続	食、職

【発表内容】

「地域の魅力」については、まず自然の豊かさがある。景色が綺麗で近くには移ヶ岳があり、夜にはどこでも星が綺麗に見える。次に“人の魅力”。良くも悪くも世代を超えた顔見知りが多く、人の繋がりが強い。譲り合いや人が優しく、野菜など頂けるため生活にお金

がかからない。

「地域の課題」については、インフラ面が一番大きな問題となっている。交通の不便さから通勤が不便で、車がないと生きていけない。また人口減少が起きている。特に若い世代が少なくなっており、小中学校など学校や子どもの遊び場がなくなっている。その為、廃校や空き地、耕作放棄地が増加している。さらに地域でのイベントがないことからコミュニティもなくなっている。

「今後やりたいこと・取り組み」について、瀬川以外との交流を増やすためにイベントの企画を行う。“多世代地域交流イベント”“国、都市、町との提携”、空き地を活用するための“農地(農業)を周知するイベント”を行いたい。

図表 9. 2 班ワークショップ意見

メンバー氏名：石川育実(獨協大学学生)、佐々木裕美子(結いの会)、村越丈(消防)、米山昌幸(獨協大学教授)、鈴木俊栄(Switch スタッフ)

欠席：佐々木克明(市職員)、渡辺宏一(やってみっ会)

	すべての付箋の意見	分類
「地域の魅力」について	のどか	自然
	自然がたくさんで空気がきれい	自然
	自然が豊か	自然
	自然 移の岳 紫川	自然
	春夏秋冬の自然の美しさ	自然
	風景がなつかしい	自然
	個性が豊か	自然
	紅葉がきれい	自然
	文化 神楽 三匹獅子舞	伝統
	神社が多くある	伝統
	伝統を続け三匹獅子舞を続けている (石沢地区)	伝統
	伝統芸能が伝承されている	伝統
	高齢者の見守りに力をいれている	人
	人が優しい	人
	人が親切	人
	協力をしあって瀬川地区を盛り上げようと団体を組んで頑張っている	人
	気さく 結	人
	地域のみなさんが優しい	人
	こだわりのそばが食べられる	食
食 ・エゴマ ・そば ・せがわ食堂 ・聖石温泉	食	
「地域の課題」について	少子化	少子化
	子供が少ない	少子化
	若者が少ない	少子化
	若手不足、担い手不足	少子化
	小学生を地元に入れる	少子化
	若者がいない、大学進学に伴って市外に出てしまう	少子化
	瀬川以外に家を建てて出て行く	少子化
	遊び場所がない	少子化
	独身者が多い	少子化
	若い人達が町へ町へと住居を求めて瀬川から離れてしまう	少子化

今後やりたいこと・取り組み	高齢化が進んでいる 救急の時にどうするか	高齢化
	高齢者が増えていくばかりでこれからどのように支えていかなければと考えさせられる	高齢化
	移動配車の活用がもっとあれば	高齢化
	農地、遊休施設	土地、空き地、農地
	農地があれいている	土地、空き地、農地
	空き屋増加	土地、空き地、農地
	空き屋が増えている	土地、空き地、農地
	小学校の廃校 維持費	土地、空き地、農地
	仕事が農業以外ない 主要産業のほとんどが農業	職、商店
	スーパーはどれぐらいあるのか コンビニで用は足りるのか	職、商店
	地元の店が少なくなってきている	職、商店
	通学が大変そう	通学、交通
	車以外の交通手段はあるのか	通学、交通
	SNSでの発信	SNS
	瀬川ブランドを作っていきたい	SNS
	地域で取り組めるイベントに力を入れる。伝統芸能の練習	人材呼び込み
	祭りに参加する人の人材バンク	人材呼び込み
	若者を呼び込みたい	人材呼び込み
	観光客、ツーリングをする人向けに観光地の紹介 マップ作り、歴紹介	マップ
	セガワマップ 農作物等	マップ
	廃校活用 ・レストラン ・直売所 ・チャレンジショップ	直売所、レストラン
	農産物への直売所を作る 農業従事者のモチベーションアップ	直売所、レストラン
	10、20代の交流する場所がない	イベント
	セガワマルシェ 定期開催のマルシェ	イベント
	グランドゴルフ、パークゴルフなどどんどん参加の機会があれば(子供から大人まで)	イベント
	・マルシェ ・ギネスに載るようなイベント	イベント
	中学校が木造校舎なのでリノベーションをし道の駅に活用	場所作り
	人が集まる場所作り (コミュニティーカフェ)	場所作り
	空き家のリノベーション シェアハウス	場所作り
	人が集まる場所作り カフェ	場所作り
憩いの場所(古民家カフェ)などあればお話しあいなど楽しい時間が過ごせるのではないかな	場所作り	

【発表内容】

2班のワークショップではアイデアが比較的多く出たので、分類したトピックに従って説明をした。まず、「地域の魅力」については自然、伝統、人そして食についての意見があった。自然が多く、神楽や三匹獅子舞等の伝統が残っている。住民の方々が親切で優しく、セガワ食堂やそばなどこだわりの食を楽しむことができる。次に、「地域の課題」については、少子高齢化、土地問題、職や商店、交通の4つが挙げられる。若い人はセガワから離れてしまうことが多く、その原因としては農業以外の職がないことや若者の集まる

場所がないこと、子供の通学、通勤負担が考えられる。若者がセガワを離れてしまう一方で、高齢化が進んでおり、若手人材の需要は高まっている。土地問題に関しては、空き家や遊休農地、小学校の廃校がある。最後に、「今後やりたいこと」については、人材呼び込み、マップ作成、直売所・レストラン、イベント、場所作り等のアイデアが挙がった。特に他の班には挙がらなかった、ギネスに掲載されるようなイベント開催、観光客やツーリング客に向けたマップ作りについて説明をした。また、これらの情報を発信していく上でインスタグラム等の SNS は有効であって運営していく必要性がある。

図表 10. 3 班ワークショップ意見

メンバー：黒木健登(獨協大学学生)、松井海紀(獨協大学学生)、伊藤博之(やってみっ会)、佐藤伸夫(結いの会)、宮川直樹(市職員)

欠席：箭内宏和(消防)

	すべての付箋の意見	分類
「地域の魅力」について	平凡で穏やか	自然
	寒すぎない	自然
	自然が豊か	自然
	なにもないのが良い	自然
	自然がたくさんで空気がきれい	自然
	風景がなつかしい	自然
	個性が豊か	自然
	海・湖近い	自然
	4 地区お祭り	伝統
	神社が多くある	伝統
	地域の人が親切	人
「地域の課題」について	少子化が進んでいる	少子化
	若者が地元に戻ってこない。	少子化
	学校が廃校	少子化
	瀬川以外に家を建て出て行く	少子化
	遊び場所がない	少子化
	若者が少ない	少子化
	部活が少ない	少子化
	生活必需品を揃えるのが難しい	インフラ
	自分で運転できないときつい	インフラ
	車が必需品 (ないと生きていけない)	インフラ
	ブランド力がない	その他
	市や地区としての SNS 活用が難しい	その他
	空き家がある。	土地、空き家
	農地 遊休施設	土地、空き地、農地
	片付けができないため、活用もできない	土地、空き家
	空き屋増加	土地、空き家
	葉たばこが衰退	産業
これといった産業がない。	産業	
主要産業が農業	職、商店	
今後やりたいこと・取り組み	SNS の活用 (twitter,instagram,Line など)	SNS
	ブランド力の強化	その他
	廃校の活用	施設

	道の駅	施設
	持続可能なものを作る	産業
	昆虫ビジネス（レンジ、昆虫食の商品化）	産業
	憩いの場を作る	施設

【発表内容】

ワークショップの発表時は、地元の方々から聞いたことを元にわかりやすくまとめて発表した。まず地域の魅力だが他のグループより回答が少なかったなので、一つ一つを細かく丁寧に説明した。もう少し、瀬川の地元の方々から積極的に聞けばよかったなと思うのでそこは反省点にしたい。地域の課題だが、これは意見を聞くと沢山出てきた。そのため、発表時は一つ一つを端的に説明した。中でも、地元の方々が特に仰っていた少子化やインフラ問題は細部まで発表した。最後に今後の取り組みについてだが、様々な意見が出てきた。発表時には、希望的な取り組みのものと、すぐできそうな取り組みを分けて行った。今回の、ワークショップで地域の課題点、良い点の両方が見えた。その見えた点をもとに今後様々な取り組みをしたいと思った。

図表 11. 4 班ワークショップ意見

メンバー氏名：原田奈穂(獨協大学学生)、内山輝(獨協大学学生)、橋本恵子(結いの会)、面川仁(消防)、佐藤明弘(消防)、石井真理枝(地域おこし協力隊)

欠席：

	すべての付箋の意見	分類
「地域の魅力」について	美しい自然	自然環境
	景色がいい	自然環境
	美しい	自然環境
	里山ってこんな感じっていう景色	自然環境
	星がよく見える	自然環境
	自然がいっぱい（原発の影響で山菜が取れない）	自然環境
	川辺の桜がきれい	自然環境
	夜が静か	自然環境
	川があって水が豊富	自然環境
	聖石温泉	自然環境
	住民の交流	人の交流
	みんな友達	人の交流
	優しい	人の交流
	穏やか	人の交流
	地元愛を感じる	人の交流
	知り合い（たまに放っておいてほしいぐらい）	人の交流
	人ごみのストレスが少ない	人の交流
	活動的（特に大倉区？）	人の交流
	道路が新しくなっている	インフラ
	国道沿いで道がわかりやすい	インフラ
ごみ処理センターが近い	インフラ	
せがわ食堂おいしかった	文化	
4 地区に 4 つの伝統芸能、神楽	文化	
「地域の課題」について	若者がいない	人口、住民
	少子高齢化	人口、住民

	若者が少ない	人口、住民
	高齢化と少子化	人口、住民
	将来の担い手が少ない	人口、住民
	外の人が少ない（地元民が沢山いるから治安がいい）	人口、住民
	仕事が必要	就職、教育
	20～30代の就職先がない（事務など）	就職、教育
	女性の働く場所がない	就職、教育
	地域に学校がなくなる	就職、教育
	未婚者が多い	結婚
	田村市全体でも賃貸住宅が少ない	生活
	車がないと生活しにくい	生活
	エンターテイメント施設がない	生活
	お店が少ない	生活
	歩いて行けるとところにカフェがない	生活
	いつでも自由に集えるところがない	生活
	耕作放棄地が増えている	その他
	交通の便がいいが通りすぎてしまう	その他
	良くも悪くも特徴がない	その他
今後やりたいこと・取り組み	コワーキングスペース	仕事、観光
	1階でカフェ、2階でライダースホテル	仕事、観光
	宿	仕事、観光
	シェアハウス事業	仕事、観光
	仕事の多様性	仕事、観光
	コールセンターを作る（訛っていてもいい？）	仕事、観光
	仕事する場所	仕事、観光
	カフェを作りたい（集えるところを作ってほしい）	仕事、観光
	道の駅	仕事、観光
	お見合い大会	生活
	花いっぱい地域へ	文化
	せがわ茶屋の再開	文化
	ドライブインシアター	文化

【発表内容】

地域の魅力として、自然環境、人の交流、インフラ、文化が挙げられた。まず、自然環境の魅力としては、桜や川などが美しく自然が豊かであること、夜は静かで星がよく見えること、聖石温泉などである。人の交流の魅力としては、みんな仲が良く、穏やかで、地元を愛していること、また、人が多すぎないこと、住民の交流が盛んにあることなどだ。次に、インフラの魅力としては、道路が新しくなっていること、国道沿いで道がわかりやすいこと、ごみ処理センターが近いことなどだ。そして、文化の魅力としては、セガワ食堂や4地区に4つの伝統芸能、神楽があることなどである。

地域の課題については、人口や住民、就職や教育、生活に関する課題が挙げられた。まず、人口や住民に関する課題としては、少子高齢化と若者人口の減少による将来の担い手不足、移住者が少ないことなども挙げられた。そして、就職や教育に関する課題としては、若者向けの仕事が少ないこと、学校の数の減少などである。次に、生活に関する課題としては、未婚者が多いこと、賃貸住宅が少ないこと、余暇時間を過ごすための施設が少ないこと、車がないと生活が困難であることなどがある。また、その他の課題として、耕作放棄地の増加、良くも悪くも特徴がないことなども挙げられた。

今後取り組みたいこととしては、仕事と観光、生活、文化に関するものが挙げられた。まず、仕事と観光については、コワーキングスペースや、シェアハウス事業、1階がカフェで2階がライダースホテルの施設をつくるなど、仕事の多様性を生み出すこと、道の駅やカフェなどみんなで集まれる場所を作りたいという意見が出た。次に、生活については、未婚者が多いという課題があることからお見合い大会をするのはどうかという意見があった。文化についても、花いっぱい地域にすること、セガワ茶屋の再開、ドライブインシアターを作るなどの声が上がった。

■ワークショップ集約意見

地元に対して当たり前になっていることを、我々大学生が外から見た印象として、地域の資源であると感じられるものがたくさんあった。そういうところを地域の皆さんに再認識してもらうための活動をしていきたい。小学校が廃校になることを非常に残念がっていて、有効活用されるということが地域の活性化を維持するためには必要だ。

3.4. 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催への協力と来場者アンケートの実施

2日目の11月13日は、新そば収穫祭&軽トラマルシェの運営に協力した。そばの配膳やマルシェの手伝いだけでなく、学生が来場者に「実態調査アンケート」をとった。ワークショップ時と同様に、「域の魅力」「地域の課題」「今後やりたいこと・取り組み」と「イベントについて」「大学生に期待すること」の項目でアンケートをとった。計38名からアンケートをとることができた。図表11がアンケートを集計したものである。

イベント終了後、学生と「やってみっ会」の方々と福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)申請に向けた打ち合わせを行った。

図表 11. 獨協大学田村市瀬川地区実態調査アンケート

質問項目	意見
瀬川地区の魅力 を教えてください。	交流を深められる
	自然豊か
	緑が多く、のどかな所
	自然がたくさんあるところ
	自然が豊かでみんなが仲良い
	地域の繋がりが強く優しい
	自給自足をする気になればできる。行政に頼らない生活ができる。
	どこに行くにも程ほど遠いが行きやすい。(郡山でも福島でもいわきでも)
	自然が豊かで美しい。空気がおいしい。
	静かなところ
	自然豊かで人情み溢れる人が多いところ。野菜がおいしいところ。
	地域の繋がり
	自然が豊かです。
	自然がいっぱい。人があたたかい。
	自然が豊かで春、秋の景色は最高
山がきれい。のんびり。	

	皆が元気	
	皆が仲が良い	
	人々の心が優しい。落ち着いて暮らせる。思ったより四季が美しい。	
	緑が多く、私は住みやすい	
	空気が美味しく景色が良い。明るい。近隣とも仲よし。	
瀬川地区には現在どのような課題があると思いますか？	少子高齢化	
	高齢化の進んだ地域	
	子供の減少。店がない。	
	廃校の利活用	
	少子化問題、行事などに子供が参加しにくい	
	小中学校が廃校になり、益々、少子高齢化により過疎化が進んでいる。	
	社会に無関心。行政に無関心。近所づきあいができない。若い人が地域活動に出てこない。瀬川地区4地区がバラバラに活動していて協力的でない。(瀬川地区内でも行政区をまたいだ行き来が無いので、隣の行政区が何をやっているか全然分からない。→江戸時代からの行政区の区割りをいまだに一つにできていない) 年配の方が威張ってて住みづらい。田舎なのに選挙の投票率が低い。出張所が地域のサポートをしない。出る杭は打たれる地域。何かやろうとすると反対される。新しいことをやりにくい。親世代と子世代の関係がうまくいかず、子供がこの地域から出ていく。社会の仕組みが分からず、困っていることがあってもどうしていいか分からず我慢して住むか出ていくかの選択肢しかとれない。親に子育て支援に関して頼りたくても拒否されてみてもらえない家庭が多い。地域の問題を話し合える場がない。回覧板など文書でお知らせしても読んでもらえない。スマホを使えない人が多い。若い人でも SNS ができない人だらけ。地元にお金を落としたいくない人が多い。(近所の人を儲けさせるのが嫌) 人口が減っているのに昔からの行事を同じくやろうとして若い人が苦勞しているのを年寄りが当然だという態度で現状に合った改善をしようとしないし、話し合いにすらならない。瀬川地区としての一体感を作れない。みんな自分勝手。	
	自分さえよければいいと言う人が多い気がする。各種団体の引継ぎが例年通りとひとくくりにされてちゃんとやったことややり方を引き継いでもらえず、初めてやる人が苦勞する。	
	子供が少ない。田畑が荒れている。	
	人口減っているところ	
	観光施設が無い事から人が多く集まってこない事	
	山、畑が荒れている	
	若い人が少ないこと	
	若い人がいない	
	若者が住みやすい環境を作る	
	過疎。政策的に過疎を防止する対策が必要。小学校の統合などは疑問。	
	人口が減っている	
	人口減少が進んでいる	
	小学校がなくなること。子供が極端に少なくなっていること。収入に繋がる仕事場が少ない。	
	イベントを多くしたい	
	人口が減少している(子供がいない)	
	今後、瀬川地区で行いたい取り組みがあればお書きください。	特にない
		買い物を増やす
どんどん、瀬川の特産品を作ってほしい		
地区ごとの旅行		
子供が参加しやすいような行事		
移住促進		
今年度で廃校となる瀬川小学校の利活用を地域で考えたい。できれば、		

	今回のイベントのようなものを通年で行える交流施設として地域で運営したい。
	瀬川小学校を観光交流施設にしたい。
	子供の多い瀬川地区になりたい
	いかに人を集めるための政策を考えて欲しい!
	瀬川小学校が今後どうなるのか?
	みんなで集まってできたら
	軽トラマルシェのような地域を活性化するような小さな取り組みを多く開催すること。
	皆で何かできるもの
	このようなイベント等の継続。
	明るく楽しめる活動
今回イベントに参加してみて 瀬川地区・イベントの、または以前からの瀬川地区・イベントの印象について教えてください。	交流が深められる
	今年から参加したが、地域密着でいい
	もっと人が集まるようなイベントを開催した方がいいと思う
	楽しくやりやすい
	子供などが少なく感じる
	全体的に取り組みが中途半端
	地元で盛り上げるなど感じた
	人はすくないがとてもよかったです!!
	少し栄えた農村
	今回行って見て、賑わいが全然ないと思いました。参加しないと損をするようなイメージにしないと地域の人は出てこないと思う。
	お客さんが少ない
	もっと皆で盛り上がりたい
	宣伝等がなく密かに行われているイメージ
今回のイベントに参加したきっかけを教えてください。最も当てはまるものを回答してください。	そばが食べたかったから
	瀬川地区にゆかりがある
	知り合いからのお誘い
	知り合いからのお誘い
	以前参加したことがあり、また参加したいと思ったから
	前回よりは出店軽トラが少ないように感じます。
	参加住民が少ない。PR 不足?
	農作業時期が重なっている
大学生に期待すること、大学生に協力してほしいことがあれば教えてください。	これからもこのような活動を続けて欲しいです
	なし
	瀬川の良いところ、特産品を広めてほしい
	瀬川小学校が廃校の利活用の問題で子供達がよろこべる施設を作るといい
	みんなと遊べる機会が欲しい
	特になし
	町づくりに学生も関わってほしい
	よろしくお願いします
	能動的に動く
	地域の人同士をつなげるパイプ役になってもらいたい。瀬川小学校の閉校イベントに何か協力してもらえるといいなと思う (まだ検討中ですが)
	2017 年だったか、瀬川小学校で保護者にいろいろ聴き取りをされたかと思いますが、その結果やその後の活動内容がどうなったか全然分からないので、発表会があるといいと思う。瀬川小学校で閉校イベントを考えているがネタが浮かばないので何かネタはないでしょうか?
	瀬川ことはみんなで真剣に考えてみて伝えて欲しい

	同世代(大学生)が来たいと思える様に盛り上げて明るいイベントにしてほしい。
	催し物があれば嬉しい
	瀬川地区の活性化のための企画か、シナリオを提案していただければ参考となるのではないか。他地区の例なども紹介していただければ有難い。
	継続して関わって欲しい。祭りなどのボランティア。
	若い人の声は楽しめる

3.5. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”における福島県復興支援物産展の開催

本学では夏季6月と冬季12月の年2回、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」を開催している。12月12日(月)～17日(土)に開催された“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”において、図表13のとおり、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に参加している本学の他の4グループと合同で福島県復興支援物産展を開催し、セガワ応援隊は12日(月)～16日(金)の5日間の昼休みの時間帯に瀬川地区の農産物や特産物を学内外の来場者に販売した。図表14は合同物産展のポスター・チラシ、図表15はセガワ応援隊の販売実績である。写真10は物産展の様子、写真11は物産展での販売商品と説明資料の一例である。

図表13. 福島県復興支援物産展の開催

実施企画名	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”における福島県復興支援物産展の開催
開催日	2022年12月12日(月)～12月16日(金) 昼休み(11:00～14:00)
開催場所	獨協大学学生センター雄飛ホールの北側、および雄飛ホール北側外の親水護岸の上
企画概要	<p>次の3つの目的を掲げて Earth Week Dokkyo 2022～Winter～において福島県復興支援物産展を開催し、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の他のグループと合同で出品し、瀬川産の農産物や特産品(そば粉、ハチミツ、キウイ、里芋、ハヤトウリ、米、エゴマ油、アピオス)の販売を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田村市船引町瀬川地区に対する認知度を向上させる。 ・ 獨協大学セガワ応援隊の認知度も向上させる。 ・ 田村市船引町瀬川地区の特産物を通し、瀬川地区や本事業に対する興味を持ってもらう。 <p>企画内容は以下の通りである。</p> <p>福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に採択されている5つの集落では、過疎化や高齢化が進み、集落の活性化が喫緊の課題となっている。これに対して私たち獨協大学の5グループは、よそ者である外からの客観的な視点、若者である大学生の新しい視点や行動力を活用して集落の活性化に向けて取り組んでいる。このような獨協大学の取り組みを一人でも多くの学生に知ってもらい、学内でこの事業を継承していきたい。また福島県の農産物の安心安全を広く認識してもらいたい。</p> <p>福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の活動報告の</p>

	<p>展示も行いたい。</p>
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント期間中ではあったが、1000枚のチラシを近隣住民に向けて広報したことが功を奏し、感染対策のため、学外の方は外での販売になったが、それでも多くの来場者に来ていただいた。 ・集落の方々にお願いし、作っていただいたレシピだけでなく、生産者の顔写真も添付したチラシをつくり説明したことで、来場者の方々が購入しやすくなった。 ・獨協大学周辺の地域住民の瀬川地区に対する認知度向上に貢献することができた。 ・学生も手に取りやすい価格設定であったため、学生が購入してもらうことができた。 ・物産展の売上を瀬川地区に還元することができた。 ・他の地域活性化プロジェクトチームと意見交換ができた。 ・今年度は現地へ行き、現地の方と話し、商品の知識・商品ができる過程を学んだ上で、販売することができた。
<p>今後の課題・展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年にはなかった瀬川応援隊の活動を示したポスターを制作したが、展示することができなかったため、次年度は展示したい。 ・SNSをうまく活用し、イベントの告知をするべきであった。 ・Earth Week Dokkyo 期間だけでなく、雄飛祭など開催日を増やす。 ・定期開催をすることで、商品を販売するだけでなく、活動も知ってもらいたい。 ・売れ残った商品については、値引きをして販売することになったので、販売場所や販売方法を改善していきたい。

図表 14. “Earth Week Dokkyo 2022~Winter~”福島県復興支援物産展のポスター・チラシ

12/12(月)~12/16(金) 11:30~13:30
獨協大学学生センター北側(伝右川側)

**Earth Week
Dokkyo 2022
Winter
福島県復興
支援物産展**



※売り切れ次第終了！お早めに！

喜多方市本村地区

ほんそんのお米



田村市入水行政区

あぶくまの天然水



小野町谷津作行政区

燻製たまご、漬物
ぬれ花豆、サトパン
小野高校のバトンクッキー



田村市瀬川地区

そば粉、ハチミツ、キウイ、
里芋、ハヤトワリ、米、
エゴマ油



企画：福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」
 主催：国際環境経済学科・環境共生研究所
 運営：EarthWeekDokkyo実行委員会

図表 15a. 福島県復興支援物産展のセガワ応援隊の販売実績

	単価(円)	12/12(個)	12/13(個)	12/14(個)	12/15(個)	合計個数
そば粉(300g)	300	1	3	0	1	5
ハチミツ(255cc)	1,500	4	0	0	0	4
キウイ(5個入り)	300	0	0	0	1	1
里芋	300	2	1	2	1	6
ハヤトウリ(2個入り)	200	1	2	0	1	4
米(月あかり 1kg)	500	0	1	1	0	2
エゴマ油(生)	800	2	0	1	0	3
エゴマ油(焙)	800	1	0	0	0	1
アピオス(約 200g)	200	0	2	0	1	3
個数合計		11	9	4	5	29
合計金額		9,500	2,500	1,900	1,300	15,200

図表 15b. 福島県復興支援物産展のセガワ応援隊の販売実績(金額変更後)

	単価(円)	12/16(個)	12/19(個)	合計個数
そば粉(300g)	100	5	0	5
ハチミツ(255cc)	1,000	6	0	6
キウイ(5個入り)	100	9	0	9
里芋	100	4	0	4
ハヤトウリ(2個入り)	100	6	0	6
米(月あかり 1kg)	500	8	0	8
エゴマ油(生)	800	5	2	7
エゴマ油(焙)	800	4	5	9
アピオス(約 200g)	100	2	0	2
個数合計		49	7	56
合計金額		19,800	5,600	25,400

写真 10. 福島県復興支援物産展の開催風景



写真 11. 福島県復興支援物産展での販売商品(キウイ、ハヤトウリ、サトイモ、エゴマ油、米、ハチミツ)とハヤトウリの説明資料



凍頂川のハヤトウリ



低カロリーの食材

美容や老化防止、高血圧予防、むくみ解消、便秘予防の効果が期待できます。

あく抜きは縦半分に切り、切り口を合わせて1～2分擦ってあくを取る。

あく抜きの後の簡単な食べ方：
塩もみ、すの物、浅漬け、炒め物、サラダや揚げ物

生産者紹介

やってみっ会
渡辺宏一さんが作りました！



3.6. 大学生と集落の協働による地域活性化事業 活動報告会

2月11日(土)にホテル福島グリーンパレス 2階「瑞光の間」にて、「令和4年度大学生と集落の協働による地域活性化事業活動報告会」が開催された(写真12参照)。2020年度、2021年度は開催中止とオンライン開催であったため、3年ぶりの対面での報告会開催となった。過疎・中山間地域を中心とした集落において、高齢化や若者流出により地域活動の担い手不足が深刻化している中、大学生グループにより1年目の集落实態調査、2年目の集落活性化に向けた実証活動、3年目以降の地域活動の自走に向けた伴走支援等の活動をしてきたグループによる発表が行われた。計23チームによる発表だった。私たち瀬川地区の活動を発表するだけでなく、同じ福島県で活動している他のグループの活動を聞き、参考になった。

写真12. 活動報告会



4. 次年度の活動計画案

現地調査を行った11月13日には、セガワ応援隊メンバーと「やってみっ会」の方々と、次年度に向けた「福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)」申請の打ち合わせを行った。獅子舞や神楽といった伝統芸能のPR事業を中心に据え、現地での「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催に協力する他、瀬川地区のパンフレット作成・多言語化、SNSの公式アカウントの運営を主軸として活動していくという方向性にまとまった。ここでは、それを踏まえて、次年度に取り組むべき活動計画案をまとめる。

4.1. 2022年度末に閉校となる瀬川小学校の利活用

瀬川小学校は、セガワ応援隊の前身である米山チームが最初に瀬川地区の現地調査に訪れたときに、最初に現地に降り立った場所である。米山チームは、瀬川小学校で開催され

ていた文化祭「瀬川フェスティバル2017」の親子レクにボランティアとして参加した(平成29年度福島県大学生の力を活用した集落復興支援事業「田村市船引町瀬川地区調査報告書」参照)。

地区の子どもたちの学びの場であると同時に、地域コミュニティの拠り所的な存在であった瀬川小学校が2022年度末で閉校となる。この瀬川小学校には地元の皆さんの想いも強く、ワークショップでも何かに活用できないかという声が聞かれた。まだ瀬川小学校の利活用については、メンバーでアイデア出しができていないが、現時点で出ている「ボタニカルガーデン(宿泊施設+フリースペース)」のアイデアを図表16に記載しておく。

図表 16. 瀬川小学校のボタニカルガーデン(宿泊施設+フリースペース)利用

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 学校のグラウンドをガーデンにし、校舎にフリースペース(テレワーク施設)と宿泊施設を設ける。 • 夜は校庭をライトアップして、教室から綺麗な景色を一望できるようにする。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> • ワorkshopで話し合いをした際、「みんなで集まれる場所が欲しい」という声があった。交流の場の創出になる。 • 地域住民の交流の場の創出に加えて、校舎を宿泊施設として利用することで、地域外の人口の誘致を期待できる。

4.2. 軽トラマルシェのサポートと拡大、大学で開催する物産展の継続

前年度に引き続き、獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”において福島県復興支援物産展の開催を行った。これは、瀬川地区で生産されたものを販売することで、大学生や獨協大学の周辺住民に瀬川地区を知ってもらうことを目的に実施したものである。今年度は物産展で販売した農産品・特産品を完売することができた。次年度以降は、広報の方法を改善しつつ、より多くの方々に瀬川地区を知ってもらうきっかけとして活動を拡大していきたいと考えている。

今まで瀬川出張所で開催していたマルシェを拡大していきたいと考えている(図表17参照)。今年度で廃校となる瀬川小学校の校庭を利用し、福島県全域から軽トラマルシェに参加する人を募集するというものである。

図表 17. 瀬川地区物産展の継続・拡大

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 今まで瀬川出張所で開催していた軽トラマルシェを、今年度で廃校となる瀬川小学校のグラウンドで開催する。 • 福島県全域で軽トラマルシェの出店者を募り、福島県の一大イベントにする。 • 瀬川地区で作られた農産品・特産品を販売し、その商品を通じて瀬川地区を知ってもらう。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> • 福島県全体での大きなイベントとなるため、メディアからの注目が期待できる。 • 県内だけでなく、県外からの参加者が増え、地域経済の活性化が期待

	<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬川地区の魅力を知ってもらう機会の創出。 ・福島県全域で出店者を募ることで、横の繋がりが生まれる。 ・雇用の創出。 ・廃校の利活用。
--	--

4.3. プロフィール動画の撮影と公開

ドローンや GoPro を活用し、瀬川地区の名所や四季折々の風景、伝統などを撮影する。映像、写真を活用し、瀬川地区のプロフィール動画を作成する。作成した動画は SNS などを使い、多くに人の目に触れ、セガワのアピール活動に利用する(図表 18 参照)。

図表 18. 動画の作製、投稿

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・セガワ地区の名所、季節の風景を撮影。撮影した動画を編集する。 ・SNS などを利用し、動画を投稿。 ・思案段階であるが、福島県でおこなわれている動画コンテストへの参加などできたらなおよい。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・人の目に触れるものを作り、県内外へ瀬川地区にアピールをすることが可能である。

5. おわりに

獨協大学セガワ応援隊は、2017 年度、2018 年度、2019 年度、2021 年度に続いて、5 年目となる 2022 年度の事業はオンライン・ミーティングと現地での活動を行った。今年度は 2019 年度ぶりに現地で活動でき、実際に現地に学生が入ることができ、オンラインでは得られなかった意見を聞くことができ、地域課題について新たな気付きを得ることができた。

次年度も現地とはオンライン、学内では対面も併用したミーティングを継続して行っていきたい。これまでの活動から継続して地域コミュニティの活性化をはかりつつ、物産展で取り扱ったエゴマやそばなど、豊かな農産品の PR や伝統芸能の PR を通して、外部への働きかけに力を入れていきたい。実際に、セガワ応援隊のメンバーが現地に入って動画や写真を撮影して来て、実証実験としてお試しで動画編集し、写真をパンフレット企画に貼り付けてパンフレット作成企画の企画書を作るといこともやっていきたいと考えている。

また瀬川小学校の利活用は大きな課題である。さまざまな小学校の活用のアイデアを出し合って、地域住民の皆さんが集まれるコミュニティの中心的な役割を持たせられるといいかと思う。またどのような手続きでそれが実現するのか、手続きについても調査していきたい。そして、「やってみっ会」の 2024 年度地域創生総合支援事業(サポート事業)への申請をサポートしていきたい。

謝辞

今年度は、何度もオンライン・ミーティングの開催や現地調査の受け入れもしていただいた。お付き合いいただいた「やってみっ会」会長の新田昭悟氏、副会長の三浦隆一氏、

いつも学生と連携してくださっている佐々木正和氏、テラス石森でオンライン・ミーティングをセッティングしていただいている一般社団法人 Switch スタッフで田村市地域おこし協力隊の中山真波さん、そして2017年度田村市総務部協働まちづくり課にいた当時からずっと私たちの活動の場を整えてくださっている鈴木俊栄氏には、本当にお世話になりました。また、福島県地域振興課ならびに社会システム株式会社の皆さまをはじめとし、本事業に関わったすべての方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

写真 13. 獨協大学セガワ応援隊と瀬川住民@活動報告会



左から橋本恵子氏、伊藤美津子氏、新田昭悟氏、佐々木正和氏、三浦隆一氏